

教会学校 花の日の訪問のお知らせ

教会学校では毎年、市民のために休日にも仕事をしてくださっているところに感謝をお伝えするために、お花とみことば入りの手作りの色紙をもって訪問しています。

お花がある人は持って来てください。訪問の後、日野の畜産技術センターでのレクレーションを予定しています。たくさんの方の（こどもも大人も）ご参加をお待ちしています。

お花がある人はもってきてね。
ぼうしとハンカチももってきてね。

<今年の花の日訪問のスケジュール>

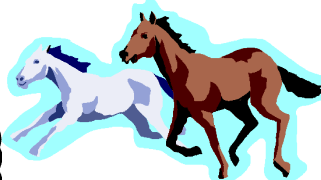
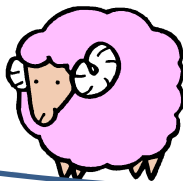
6月8日（日） 13：00 教会出発—



しょうぼうしょ———けいさつしょ———きゅうじつしんりょうしょ

———日野・畜産技術センター———教会着 16：00 ごろ

雨なら教会でゲームをします。



花の日の起源 1856年、アメリカのマサチューセッツ州チュルシイ市にある教会のレオナルド牧師の提案が起源であったそうです。特に6月のある日曜日を定めて少年少女のために特別のプログラムを作り、子ども中心の集会を行ったのがはじまりです。

■1866年には、アメリカのメソジスト教会が年会において6月第2日曜日を「子どもの日」として教会行事に加えることを決議しました。この日は少年少女たちの宗教教育を強調する日であったそうです。同時に、一年中で最も多くの花の咲く季節であることから、信者は各々花を持ち寄って教会堂を飾り、礼拝後、その花を子どもたちに持たせて病院を訪問させ、病人を見舞い、また警察（派出所）や各社会施設を慰問したのだそうです。

■この行いは、子どもたちに奉仕と感謝を実地に学ばせるためのものでもありました。このように最初は、子どものために計画されたものが、花の日と呼ばれるようになったのです。そのため、花の日は同時に子供の日として日本の教会において礼拝が守られ、定められた教会の暦となって定着していったのです。